



バスの妖精「ハッピー」

バスに乗って、出かけよう。



Happy Ride in Shizuoka Project



～2026小学生バス無料デー実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
(事務局：静岡県バス協会、県交通政策課)

背景と目的、目指す姿

背景

- ・少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの普及による長期的な**乗合バス利用者の減少**
- ・**バスドライバーの高齢化**による運転手不足への危機感



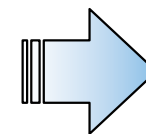
目的

- ・小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- ・地域の移動手段である路線バスを将来に渡り維持するため、**社会全体で「乗って育む」意識を啓発**
- ・皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減

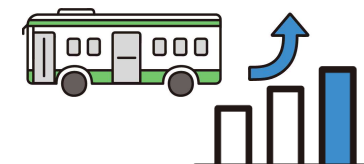


目指す姿

- ・マイカーから地域公共交通への転換（モビリティマネジメントの推進）
- ・バスが楽しい、（無料デーでなくても）バスに乗りたい小学生の増加
- ・子どもをバスに乗せたいと思う保護者の増加



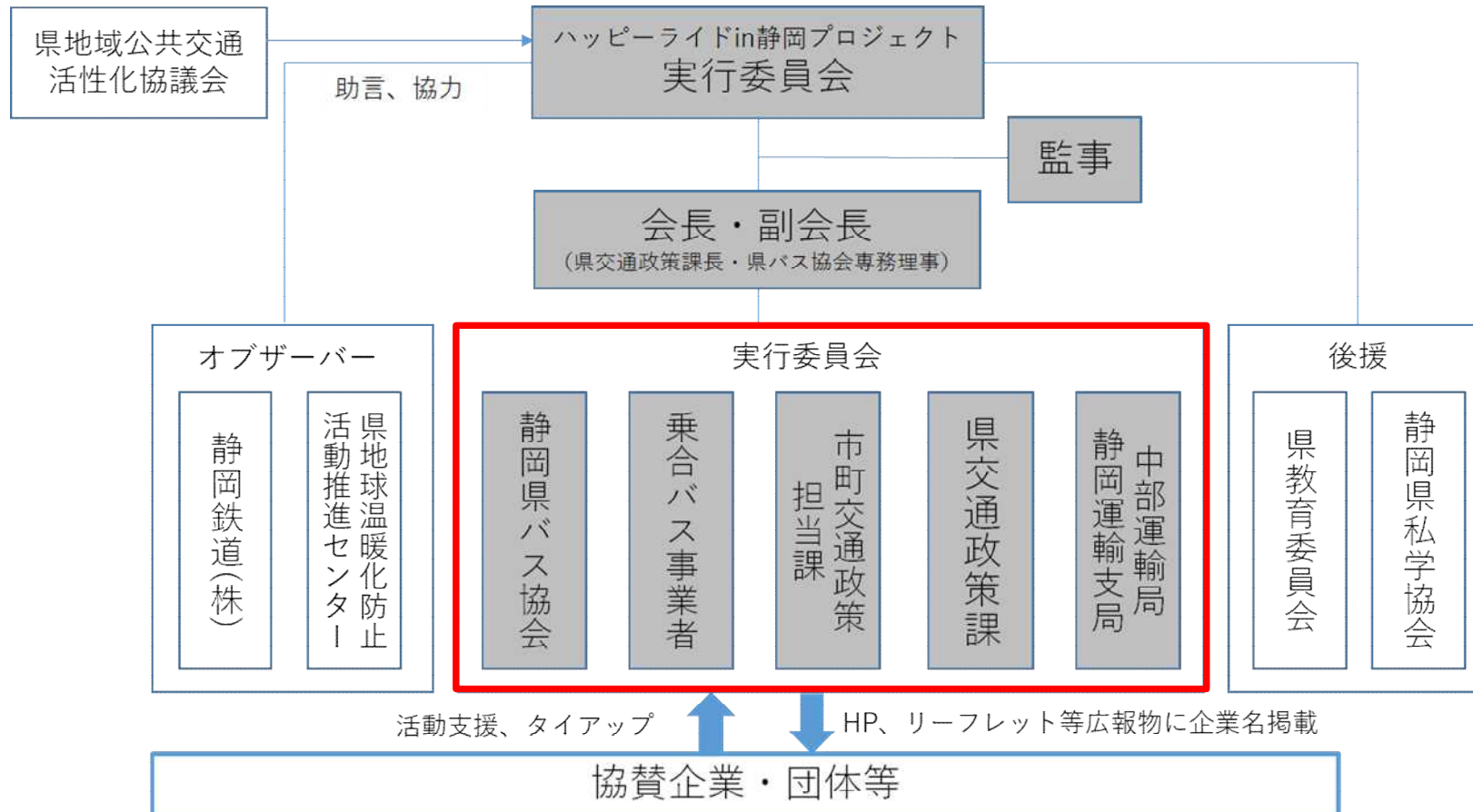
**バス利用頻度
の増加**



実施体制

概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施**
(小学生を対象とした全県規模の実施は他にない)



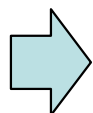
これまでの取組

項目	R 6	R 7
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 約 <u>173,000</u> 人 (国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童)	静岡県内の学校に通う小学生 約 <u>168,000</u> 人 (同左)
実施日	令和6年12月7日(土) ～8日(日) 2日間	令和7年12月13日(土) ～14日(日) 2日間
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス (土日運休路線、高速道路走行路線、空港アクセス線等を除く)	
タイアップイベント	<ul style="list-style-type: none"> ・無料デーと合わせたイベント実施 (<u>31</u>施設) ・クルポ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待(抽選) 	<ul style="list-style-type: none"> ・無料デーと合わせたイベント実施 (<u>44</u>施設) ・クルポ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待(抽選)
その他の取組	—	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>特設サイト開設、バス動画制作</u> ・<u>後援名義取得(県教育委員会、静岡県私学協会)</u>
協賛企業・団体	—	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>協賛体制の確立</u> (静鉄グループ、(一社)静岡県自動車会議所、(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部)

成果と課題（R7実施結果より）

成果

項目	内容
利用者数	・子どもの利用者は 前週から増加 （約2.5倍）
利用促進効果	・バスに乗った小学生のうち、 普段バスに乗らない（ほとんど乗らない） と回答した小学生の割合は 64%
意識、行動の変化	・昨年度のバス無料デーを知っていた小学生のうち、バスに乗ることが 「増えた」と回答した小学生は、「減った」と回答した数の2倍 （12%） ・昨年度のバス無料デーと比べ、 バスがすきになったと回答した小学生は23% （低学年は約40%） ・バスに乗った小学生のうち、バス運転手の仕事を 「もっと知りたい」という気持ちが強まった小学生は44% （低学年は59%） ・バス無料デーにバスに乗った小学生の 76%がとても楽しかったと回答 （低学年では80%） ・バス無料デーにバスに乗った 保護者等の39%が「無料デーがなければ出かけていなかった」と回答 ・バス乗った保護者等の全員が、 バス無料デーが「自分や家族が公共交通に乗るきっかけのひとつになった」と回答 ・バスに乗らなかった 保護者等の94.2%が、今後バス無料デーがあったら子どもをバスに乗せたいと回答 ・ 保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は、今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答 <small>資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより</small>



モビリティ・マネジメントの取組としては一定の効果が見られた。意識や行動の変容は、繰り返し行うことで徐々に浸透していくものであることから、継続して取り組む必要がある

成果と課題（R7実施結果より）

課題

項目		内容
周知面		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の42%が今年度のバス無料デーを知らなかったと回答（昨年度と同水準） ・情報入手経路は「学校の先生から聞いた」と「チラシで見た」が大半（保護者等も同様の傾向） ・リーフレットの持参を忘れてくる人、無料デーを知らない人がいた ・まだ児童が自主的に参加するまでには取組が定着していないものと考えられるため、学校やその他団体（小学校関連）による協力が重要
運用面	実施日	<ul style="list-style-type: none"> ・バスに乗らなかった理由では、予定が合わなかったことが主な理由（「他に用事があったから」55%、「子どもは乗りたがったが自分に用事があったから」（17%））
	対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児の対応が事業者で異なる（利用者にとって分かりづらく、未就学児を連れたお出かけを躊躇うケースも） ・県外小学生の対応（区別がつきにくい、県内外に関係なく全ての小学生を対象にしてほしい等）
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・乗務員のアナウンスの内容等を決めておく ・対象外の路線の周知（リーフレットへの記載やバス停への掲出など） ・整理券を取るように周知徹底してほしい ・転倒事故の危険性と防止のための説明をパンフレットに載せていただきたい

資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより

2026実施計画

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生※ <u>及び未就学児</u> ※国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校等の全児童
実施日	<u>令和8年12月12日（土）～13日（日）、19日（土）～20（日）4日間</u>
利用方法	リーフレット（紙またはスマホ画像）をバス運転士に提示
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会（令和6年4月24日設置） 構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：静岡県バス協会、県交通政策課（組織改正によりR8.4～課名変更）
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
協賛企業・団体	静鉄グループ、（一社）静岡県自動車会議所、（一社）日本自動車販売協会連 合会静岡県支部 ※協賛企業は随時募集
後援	県教育委員会、静岡県私学協会（7月頃名義取得予定）

2026実施計画

◎ 主な変更点と取組のポイント

		内容	考え方
実施日		12/12 (土) ~12/13 (日) 12/19 (土) ~12/20 (日) <u>4日間</u>	実施日を増やすことにより、新たな利用者増につなげる
対象者		小学生以下 <u>(幼児を含む)</u> は全員無料	家族・兄弟姉妹等でのお出かけを促進する
利用方法		リーフレットをバス運転士に提示 (紙のほかスマホ画面による提示でも可)	スマホ画像による提示を試行的に実施
周知/ 広報	<u>タイアップ施設</u>	無料デーを早めに告知 (5月~)	早期告知により、タイアップ施設によるイベント企画や広報を可能にする
	<u>学校 (教職員等)</u>	<ul style="list-style-type: none"> 学校、教職員向け説明ペーパーの作成 バス動画の活用 	協力学校を増やす
	<u>学外 (小学校関連)</u>	(例) <ul style="list-style-type: none"> スポーツ団体、学習塾、保育園、幼稚園等 自治会、PTAや保護者向けSNS、スーパー等 	学校以外の団体に賛同・協力者を増やす

(参考)今後の無料デー定着に向けたアイデア

◎ 今後に向けたアイデア (これまでに取組があったものを含む)

区分	内容	考え方
期間中にバスを使いこなすアイデア	<ul style="list-style-type: none"> 無料デーと合わせた、スタンプラリー等の企画 拠点ターミナル等から、バスを乗り継いで出かけるモデルコースを例示 	アンケートでは、無料なのに2回しか乗らない回答者が多かった
大人の同行を促すアイデア	<ul style="list-style-type: none"> 無料デーと合わせた、バス車内お絵描き展 	アンケート結果から、同行した保護者等に対するM Mの意義も大きい
無料デーの印象を実施後も継続させるアイデア	<ul style="list-style-type: none"> 無料デーのバス乗車体験談、バス写真コンクール、特設サイトで紹介等 	アンケートでは、去年の無料デーのことをおぼえていない児童が少なくない
リーフレット	<ul style="list-style-type: none"> リーフレットの一部に、カードサイズの「PASS (参加賞学校の証)」画像を入れ、切り取って定期入れやネックストラップ等に入れて持ち運びできるようにする 	乗降時間の短縮や乗務員の負担軽減

資料：調査会社報告「まとめと今後に向けたご助言・アイデア等」より

実施スケジュール(案)

月日	内容
4月23日	○実行委員会（第9回）の開催、実施計画の決定
5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校長あて小学生バス無料デーへの協力依頼を发出 ※4/24県校長会理事会で説明済（県） ・市町教育委員会・私立学校に通知①
5月下旬～	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>プレスリリース①（実施日）</u>、<u>タイアップイベントの募集</u> ・市町地域交通会議等での説明（県）
6月～	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>○実行委員会（第10回※書面協議）の開催、収支予算の承認、実施路線調査</u> ・運賃協議会での承認（市町）
9月	市町教育委員会・私立学校に通知②、バスの日（9/20）に合わせた広報
10月	特設サイト公開
11月	各学校経由で小学生に無料デーフリーパスを発送、 <u>プレスリリース②（一斉広報）</u>
12月	<u>プレスリリース③（取材依頼）</u> 、小学生バス無料デーの実施（12～13、19～20）
～3月	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケート等のとりまとめ（効果検証）、翌年度実施検討 ○<u>実行委員会（第11回）の開催、成果報告等、プレスリリース④（結果公表）</u>

昨年度承認済みの
場合は省略可

県活性化協議会
報告（8月）

県活性化協議会
報告（3月）

(参考)JCOMMへのエントリー



日本モビリティ・マネジメント会議
Japanese Conference On Mobility Management

・目的

モビリティ・マネジメントが効果的に広範に推進されることを支援（年1回開催）

・主催

（一社）日本モビリティ・マネジメント会議
（国土交通省と（社）土木学会による共同開催）

・参加者

学識者、官公庁、企業・団体

・内容

自動運転技術の研究
スマートシティ構想への貢献
交通政策との連携
講演・パネル、研究発表、**ポスター展示**など

・テーマ

持続可能で人にやさしいモビリティの実現

第21回会議概要

開催日：2026年9月4日(金) - 5日(土)
会場：新潟県湯沢町

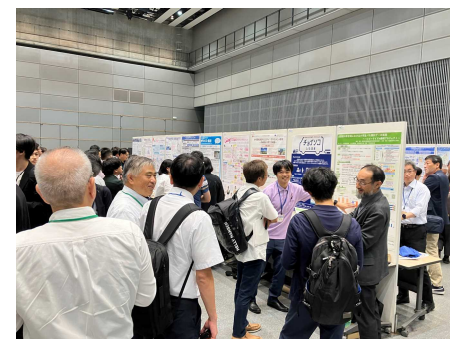
第20回（昨年）の反響



良い取組なので、当社が開催しているモビリティ・マネジメント技術講習会で事例紹介をしてほしい。【計量計画研究所】



その他、本県のイベントを参考にさせてもらいたいという意見多数！！



【ポスター発表の様子】

【結果公表】2025 静岡県小学生バス無料デー (子どもの利用は前週の約 2.5 倍、利用意識や行動に変化も)

(ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会事務局 交通基盤部交通政策課)

令和7年12月13日(土)～14日(日)の2日間、身近な公共交通である路線バスの活用を促進するため、県内の小学生を対象にバス無料デーを実施しました。

全国初の取組となった昨年度に続く2回目の実施で、昨年度のバス無料デー実施前と比べ、利用者のバスへの意識や行動に変化が見られました。

1 実施概要

(1) 対象者

県内の全小学生(国公立・私立小学校、特別支援学校等含む)約168,000人

(2) 対象のバス

県内を運行する路線バス、県内のコミュニティバス(一部路線・区間を除く)

(3) 利用方法

リーフレットをバス運転士に提示

(4) 主催

ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会

構成員：国土交通省静岡運輸支局、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者13社

2 実施結果(まとめ)

(1) 2回目となる今回のバス無料デーでも、普段バスを利用しない層のバス利用が促進された。

(2) また、初回のバス無料デー実施前との比較では、その後の意識や行動の変容について、子どもだけでなく、同行する大人にも一定の効果が認められた。

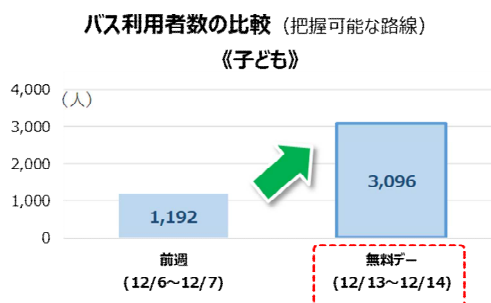
(3) 一方で、バス無料デーを知らなかった、バスに乗らなかった小学生は多く、繰り返し実施することで、新たな需要の掘り起こしにつながるとともに、バス利用に対する意識や行動が徐々に変容していくことを考えれば、バス無料デーを毎年継続して取り組む意義があるものと考えられる。

(4) JR東海が「バス無料デー」に合わせて初めて実施した、特別企画乗車券の発売では、普段鉄道やバス等を利用する機会の少ない小学生に公共交通に触れる機会を提供するなど、バスをはじめとする公共交通への新たな利用促進の可能性を示した。

3 実施結果(詳細)

(1) 利用者数

・バス無料デーの子どもの利用者は前週と比較して増加した(約2.5倍)

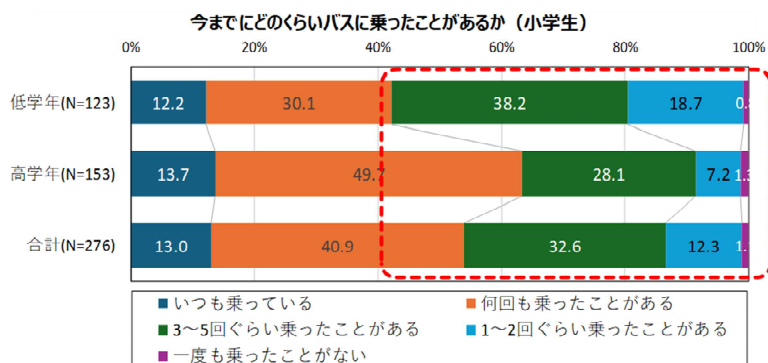


※バス事業者からの報告により無料デー当日の人数把握ができたもののみカウント

(資料：事業者アンケート)

(2) 利用促進効果

- ・無料デーにバスに乗った小学生（回答者）のうち、これまでのバス利用回数が3～5回以下の小学生が全体で46%、低学年では60%を占め、無料デーが、普段バスを利用しない小学生が、“バスの利用を体験する機会”となった

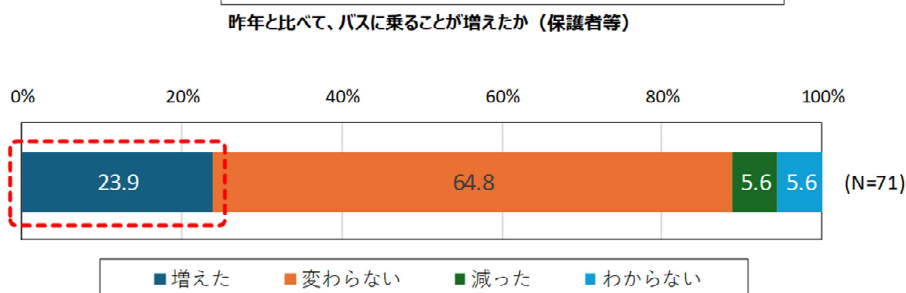
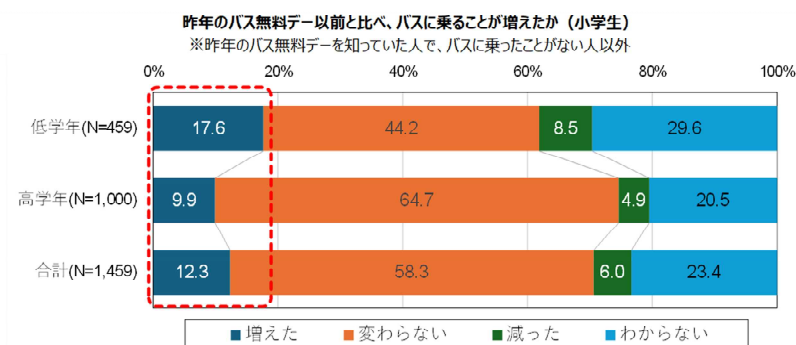


（資料：小学生アンケート）

(3) バス利用の行動・意識変化

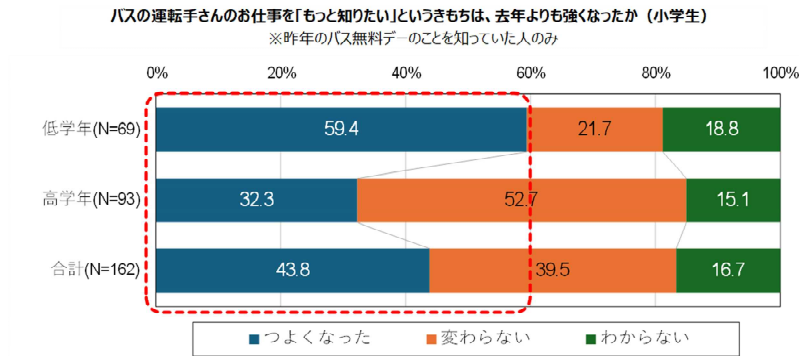
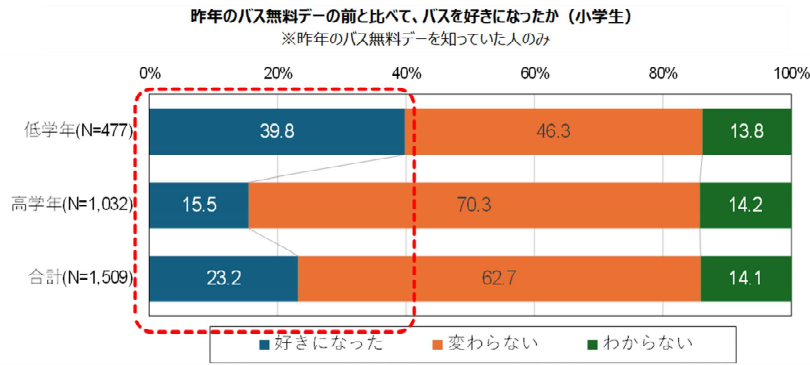
ア 行動変化

- ・バスに乗ることが「増えた」と回答した小学生は12%（「減った」6%）、保護者では「増えた」が24%（「減った」6%）で、いずれも「増えた」と回答した人が増加した



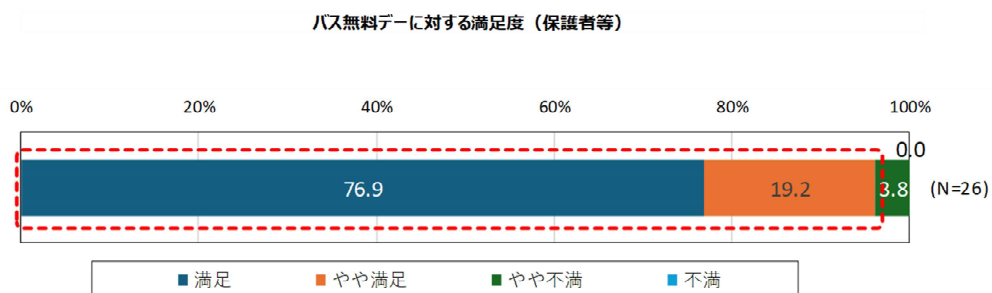
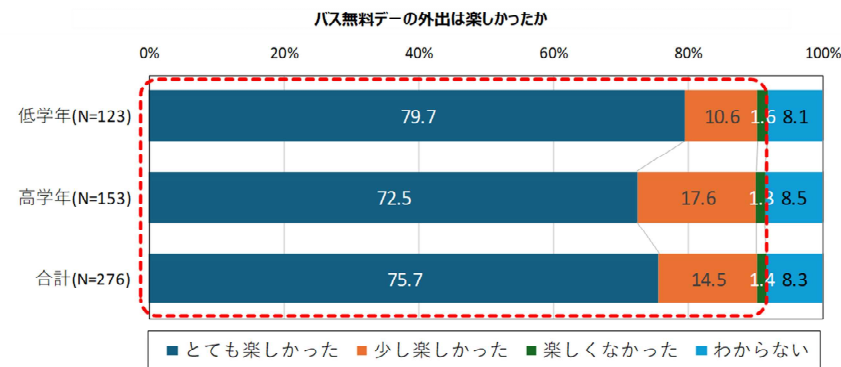
イ 意識変化

- ・昨年度の無料デー前と比べ、低学年の40%がバスを「好きになった」と回答。運転手への関心度では、低学年の60%が「バスの運転手さんのお仕事を「もっと知りたい」気持ちが強まった」と回答した ※学年別で差が大きい



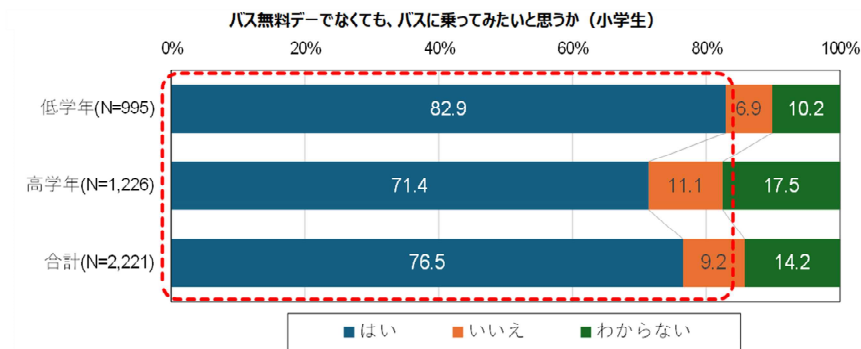
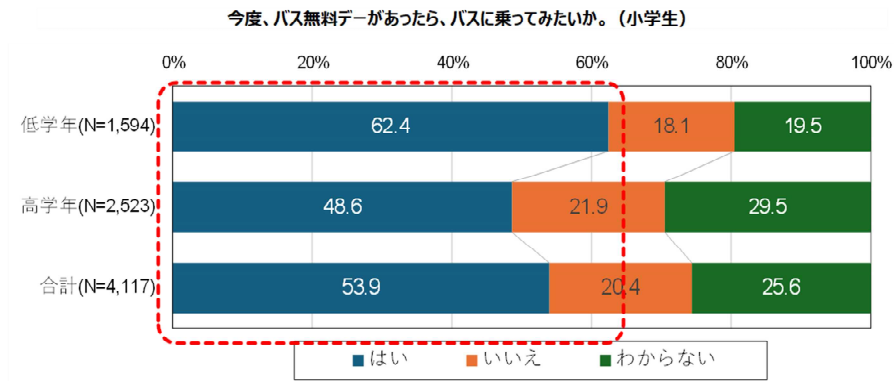
ウ 満足度等

- バス無料デーが「楽しかった」と回答した小学生は約 90%（「少し楽しかった」を含む）、保護者も「満足」「やや満足」と回答した人が 96%を占めた



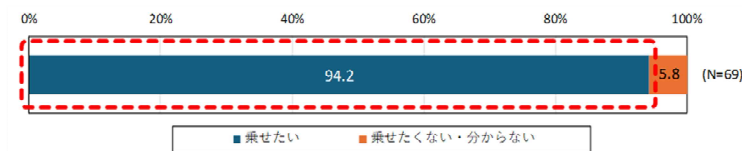
エ 今後の利用意向

- 小学生では、合計で「はい」が 54%を占め、「いいえ」の 20%を大きく上回っている
- バス無料デーでなくてもバスに乗ってみたいと思うかの質問には、合計では「はい」が 77%と高い割合を占めた

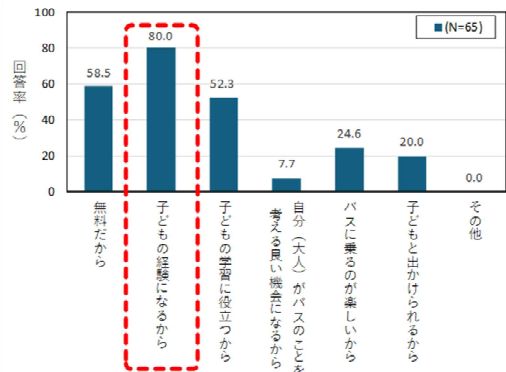


- ・保護者等では、子どもをバスに「乗せたい」が94%を占め、乗せたいと思った理由では「子どもの経験になるから」が80%で最も高かった

今度、バス無料デーがあったら、子どもをバスに乗せたいか (保護者等)

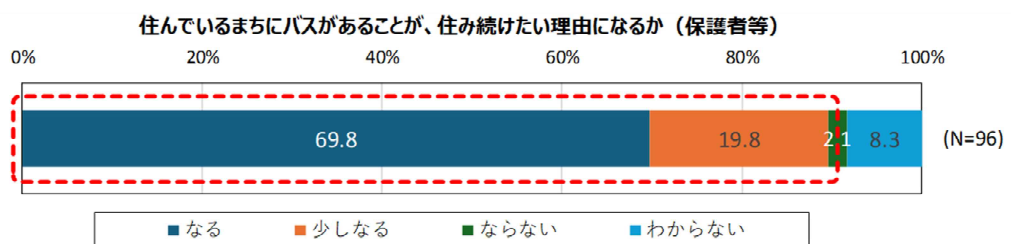


乗せたいと思った理由はなにか (保護者等)

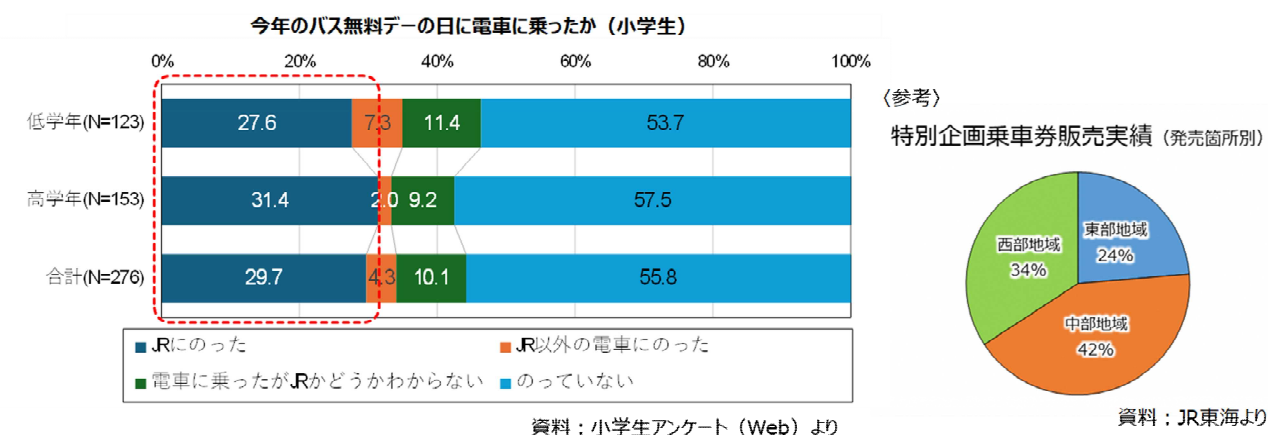


オ その他

- ・保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答した



- ・バス無料デーに、「JRにのった」と回答した小学生は30%。JR東海によれば、「静岡県小学生バス無料デー」に合わせて発売した特別企画乗車券(※)は、2日間で約2,300枚の発売があった



※静岡県内の学校に通学する小学生を対象に、JR線（東海道本線「熱海～豊橋」、御殿場線「沼津～国府津」、身延線「富士～甲府」）が乗り放題となる特別企画乗車券を100円で発売

（資料：①～⑤小学生、保護者等アンケート、JR東海提供資料）

▼調査方法等の実施結果の詳細は、「2025 静岡県小学生バス無料デー実施結果」のページをご覧ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/1080305.html>